

令和4年度横須賀市地方公営企業

決算審査意見

第1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第30条第2項の規定に基づく審査）

第2 審査実施の期間

令和5年6月1日から同年8月9日まで

第3 審査の対象

令和4年度横須賀市水道事業会計決算

令和4年度横須賀市公共下水道事業会計決算

令和4年度横須賀市病院事業会計決算

上記各会計決算に関する事業報告書、キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書

第4 審査の主な着眼点

審査に付された各会計の決算その他関係書類が関係法令に準拠して作成されており、その計数が正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているか。また、予算執行が適正に行われたか。

各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたか。

第5 審査の実施内容

横須賀市監査基準に準拠し、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類との照合その他必要と認めた審査手続を実施した。

なお、各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかの検討に当たっては、事業の経営分析を行った。

第6 審査の結果

審査に付された各会計の決算その他関係書類は関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認められた。また、予算執行は適正に行われていると認められた。

事業の運営面についてみると、各公営企業ともに企業の経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されていると認められた。

主要な経営指標等の推移

第1 3企業会計合計

3企業会計合計の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
経営 成 績	営業収益	19,180,597	18,951,101	18,443,558	18,473,473	18,354,648
	営業損失	3,609,028	4,189,930	7,665,874	9,334,126	8,186,793
	経常利益	2,363,585	1,933,157	2,100,470	2,086,049	1,220,348
	当年度純利益	2,493,626	1,951,767	2,026,210	2,021,891	1,200,285
	繰入金を除いた 当年度純損失	977,790	1,557,305	861,782	1,221,584	1,837,584
財 政 状 態	資産合計	357,275,942	353,157,338	353,670,281	348,666,364	344,188,484
	資本金	80,389,020	84,220,507	87,145,536	88,987,371	90,678,215
	資本合計	109,685,030	111,942,129	114,074,733	116,096,902	117,297,977
	自己資本構成比率	68.6%	69.4%	69.3%	70.0%	70.7%
	1年超滞納未収金	39,071	35,398	30,105	29,773	29,526
	不納欠損額	12,288	6,449	6,392	3,539	4,450
	企業債年度末残高	105,888,418	102,048,711	99,733,756	95,971,757	94,297,158
	企業債利息	1,484,129	1,228,916	1,000,688	815,476	651,826
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	8,905,541	8,620,872	8,954,130	9,755,267	7,127,463
	投資活動による キャッシュ・フロー	△5,345,734	△10,120,722	△8,790,620	△9,183,252	△7,499,603
	財務活動による キャッシュ・フロー	△1,285,365	△2,444,773	△1,007,934	△2,478,156	△308,927
	資金期末残高	17,278,305	13,333,681	12,489,257	10,583,115	9,902,048
そ の 他	建設改良費	10,391,766	10,694,424	12,300,094	10,038,985	12,467,992
	一般会計繰入金	5,055,208	5,042,490	4,361,328	4,712,150	4,581,665
	職員数	308人	312人	318人	313人	309人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
 4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

公営企業3会計の合計について、営業収益は、水道事業及び病院事業が増収となったが、公共下水道事業で減収となったため、前年度に比べて1億1,882万円(0.6%)減少し、183億5,464万円となった。

営業損失は、水道事業及び公共下水道事業で減益となったが、病院事業で増益となったため、前年度に比べて11億4,733万円(12.3%)減少し、81億8,679万円となった。

経常利益は、すべての事業で減益となったため、前年度に比べて8億6,570万円(41.5%)減少し、12億2,034万円となった。

当年度純利益は、すべての事業で減益となったため、前年度に比べて8億2,160万円(40.6%)減少し、12億28万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失18億3,758万円となり、前年度に比べて6億1,600万円(50.4%)増加した。

(2) 財政状態

資産合計は、すべての事業で減少したため、前年度に比べて44億7,788万円(1.3%)減少し、3,441億8,848万円となった。

資本合計は、すべての事業において増加したため、前年度に比べて12億107万円(1.0%)増加し、1,172億9,797万円となった。

1年超滞納未収金は、水道事業が増加したが、公共下水道事業及び病院事業で減少したため、前年度に比べて24万円(0.8%)減少し、2,952万円となった。

建設改良等の財源に充てるための企業債(以下「企業債」という。)年度末残高は、病院事業が増加したが、水道事業及び公共下水道事業で減少したため、前年度に比べて16億7,459万円(1.7%)減少し、942億9,715万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により71億2,746万円増加し、投資活動により74億9,960万円減少し、財務活動により3億892万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて6億8,106万円(6.4%)減少し、99億204万円となった。

(4) その他

建設改良費は、水道事業が減少したが、公共下水道事業及び病院事業で増加したため、前年度に比べて24億2,900万円(24.2%)増加し、124億6,799万円となった。

一般会計繰入金は、水道事業が増加したが、公共下水道事業及び病院事業で減少したため、前年度に比べて1億3,048万円(2.8%)減少し、45億8,166万円となった。

職員数は、病院事業が同数であったが、水道事業及び公共下水道事業で減少したため、前年度に比べて4人減少し、309人となった。

第2 水道事業

水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
経営成績	営業収益	9,308,338	9,131,786	9,030,767	8,912,515	9,005,274
	営業利益又は 営業損失(△)	830,256	354,277	585,427	538,435	△5,883
	経常利益	1,609,207	1,153,915	1,378,812	1,267,336	862,675
	当年度純利益	1,742,765	1,142,246	1,349,393	1,258,118	809,328
	繰入金を除いた 当年度純利益	1,731,175	1,133,214	1,339,937	1,248,468	799,058
財政状態	資産合計	98,832,833	98,884,941	99,442,647	100,978,877	100,853,427
	資本金	52,351,152	54,829,502	56,829,502	57,730,555	58,442,389
	資本合計	60,349,674	61,510,920	62,860,313	64,118,695	64,928,023
	自己資本構成比率	77.8%	78.4%	78.8%	78.5%	78.8%
	1年超滞納未収金	9,936	10,048	11,034	12,365	13,320
	不納欠損額	5,538	3,249	2,075	790	1,034
	企業債年度末残高	19,009,124	18,482,550	18,034,649	18,524,866	18,511,503
	企業債利息	244,377	197,419	153,617	119,716	94,213
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	4,198,358	3,813,362	4,169,383	3,844,871	3,984,662
	投資活動による キャッシュ・フロー	△3,814,569	△6,638,508	△4,585,959	△5,183,415	△3,789,139
	財務活動による キャッシュ・フロー	△20,749	△507,574	△447,900	490,217	△13,363
	資金期末残高	9,753,072	6,420,352	5,555,875	4,707,549	4,889,709
その他	建設改良費	4,335,093	4,943,220	4,871,623	6,268,612	4,919,796
	一般会計繰入金	46,590	28,032	13,224	9,650	13,471
	職員数	180人	177人	174人	170人	168人

(注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。

2 繰入金を除いた当年度純利益は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。

3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。

4 自己資本構成比率 = (資本合計 + 繰延収益) / 総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、給水収益の増などにより、前年度に比べて9,275万円（1.0%）増加し、90億527万円となった。

営業損益は、営業収益が増加したものの、営業費用が減価償却費の増及び電気料金の高騰による動力費の増などにより増加したため、前年度の営業利益から、588万円の営業損失に転じた。

経常利益は、営業外収益が増加し、営業外費用が減少したものの、営業損失に転じたため、前年度に比べて4億466万円（31.9%）減少し、8億6,267万円となった。

当年度純利益は、特別利益の増加が、特別損失の増加を下回り、経常利益が減少したため、前年度に比べて4億4,878万円（35.7%）減少し、8億932万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純利益7億9,905万円となり、前年度に比べて4億4,940万円（36.0%）減少した。

(2) 財政状態

資産合計は、現金預金の増加が、長期性預金の満期償還による投資その他の資産から現金預金への振替額を大幅に下回ったことなどにより、前年度に比べて1億2,544万円（0.1%）減少し、1,008億5,342万円となった。

資本合計は、主に資本金が組入資本金の組み入れによって増加したことにより、前年度に比べて8億932万円（1.3%）増加し、649億2,802万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて95万円（7.7%）増加し、1,332万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて1,336万円（0.1%）減少し、185億1,150万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により39億8,466万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により37億8,913万円減少し、企業債償還等の財務活動により1,336万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて1億8,215万円（3.9%）増加し、48億8,970万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に経年化した配水管の耐震性能を備えた管への更新工事などの配水施設整備事業に充てられ、前年度に比べて13億4,881万円（21.5%）減少し、49億1,979万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて382万円（39.6%）増加し、1,347万円となった。

職員数は、前年度に比べて2人減少し、168人となった。

第3 公共下水道事業

公共下水道事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
経営成績	営業収益	9,177,202	9,124,877	8,978,076	8,877,462	8,664,815
	営業損失	3,833,596	3,883,076	3,723,911	4,130,107	4,804,942
	経常利益	813,429	903,219	1,016,566	693,129	247,167
	当年度純利益	820,029	940,781	979,009	648,673	280,450
	繰入金を除いた 当年度純損失	1,626,797	1,547,259	1,276,527	1,584,151	1,748,149
財政状態	資産合計	242,485,052	238,377,787	236,141,607	229,324,707	225,841,676
	資本金	15,650,911	16,730,048	17,550,078	18,490,859	19,469,869
	資本合計	38,920,868	39,873,982	40,854,385	41,503,073	41,784,314
	自己資本構成比率	64.8%	65.5%	65.9%	67.0%	67.5%
	1年超滞納未収金	23,408	19,888	14,475	13,071	13,029
	不納欠損額	6,200	3,103	3,856	2,662	2,397
	企業債年度末残高	82,162,009	79,117,622	77,611,193	73,706,701	71,256,959
	企業債利息	1,198,145	994,246	812,474	664,063	527,962
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	3,892,548	4,043,804	4,108,471	4,195,189	3,112,885
	投資活動による キャッシュ・フロー	△1,160,893	△2,890,329	△3,547,885	△3,415,361	△2,503,995
	財務活動による キャッシュ・フロー	△1,169,780	△1,943,279	△313,847	△2,620,649	△1,084,070
	資金期末残高	3,967,219	3,177,414	3,424,152	1,583,331	1,108,150
その他	建設改良費	5,610,144	5,039,538	6,607,396	3,246,100	6,190,116
	一般会計繰入金	3,616,618	3,728,458	3,620,104	3,701,500	3,569,194
	職員数	121人	127人	131人	130人	128人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
 4 自己資本構成比率 = (資本合計 + 繰延収益) / 総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、他会計負担金の減などにより、前年度に比べて2億1,264万円(2.4%)減少し、86億6,481万円となった。

営業損失は、営業収益の減少に加え、電気料金の高騰による処理場費の増などによる営業費用の増加により、前年度に比べて6億7,483万円(16.3%)増加し、48億494万円となった。

経常利益は、営業外収益が増加し、営業外費用が減少したものの、営業損失が増加したため、前年度に比べて4億4,596万円(64.3%)減少し、2億4,716万円となった。

当年度純利益は、特別利益の減少が、特別損失の減少を下回ったものの、経常利益が減少したため、前年度に比べて3億6,822万円(56.8%)減少し、2億8,045万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失に転じ17億4,814万円となり、純損失額は前年度に比べて1億6,399万円(10.4%)増加した。

(2) 財政状態

資産合計は、主に構築物等の減価償却等に伴う固定資産の減少により、前年度に比べて34億8,303万円(1.5%)減少し、2,258億4,167万円となった。

資本合計は、主に資本金が組入資本金の組み入れによって増加したことにより、前年度に比べて2億8,124万円(0.7%)増加し、417億8,431万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて4万円(0.3%)減少し、1,302万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて24億4,974万円(3.3%)減少し、712億5,695万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、減価償却費と資産減耗費を主因として業務活動により31億1,288万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により25億399万円減少し、企業債償還等の財務活動により10億8,407万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて4億7,518万円(30.0%)減少し、11億815万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に下町浄化センター汚泥焼却炉設備更新工事などの終末処理場建設事業に充てられ、前年度に比べて29億4,401万円(90.7%)増加し、61億9,011万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1億3,230万円(3.6%)減少し、35億6,919万円となった。

職員数は、前年度に比べて2人減少し、128人となった。

第4 病院事業

病院事業の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
経営成績	医業収益	695,056	694,438	434,714	683,495	684,558
	医業損失	605,688	661,132	4,527,391	5,742,454	3,375,967
	経常利益又は 経常損失(△)	△59,050	△123,977	△294,909	125,584	110,506
	当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△69,168	△131,260	△302,192	115,099	110,506
	繰入金を除いた 当年度純損失	1,082,168	1,143,260	925,192	885,900	888,493
財政状態	資産合計	15,958,056	15,894,609	18,086,027	18,362,779	17,493,379
	資本金	12,386,956	12,660,956	12,765,956	12,765,956	12,765,956
	資本合計	10,414,487	10,557,226	10,360,034	10,475,133	10,585,639
	自己資本構成比率	69.8%	70.6%	61.5%	61.1%	64.4%
	1年超滞納未収金	5,727	5,461	4,595	4,336	3,177
	不納欠損額	549	96	459	86	1,018
	企業債年度末残高	4,717,284	4,448,538	4,087,913	3,740,189	4,528,695
	企業債利息	41,606	37,250	34,596	31,696	29,650
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	814,635	763,704	676,275	1,715,205	29,915
	投資活動による キャッシュ・フロー	△370,270	△591,884	△656,774	△584,476	△1,206,467
	財務活動による キャッシュ・フロー	△94,835	6,080	△246,185	△347,724	788,506
	資金期末残高	3,558,013	3,735,914	3,509,229	4,292,234	3,904,188
その他	建設改良費	446,528	711,664	821,073	524,272	1,358,079
	一般会計繰入金	1,392,000	1,286,000	728,000	1,001,000	999,000
	職員数	7人	8人	13人	13人	13人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
 4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
 5 職員数は市職員数であり、指定管理者の職員は含まれていない。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

市民病院及びうわまち病院（以下「両病院」という。）は、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理者制度（利用料金制）を導入している。

医業収益は、市民病院では増加し、うわまち病院では減少した。事業合計では前年度に比べて106万円（0.2%）増加し、6億8,455万円となった。

医業損失は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて23億6,648万円（41.2%）減少し、33億7,596万円となった。

経常利益は、市民病院が4,610万円を計上し、うわまち病院が6,440万円を計上した。事業合計では前年度に比べて1,507万円（12.0%）減少し、1億1,050万円となった。

当年度純利益は、両病院とも経常利益と同額を計上した。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失8億8,849万円となり、前年度に比べて259万円（0.3%）増加した。

(2) 財政状態

資産合計は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて8億6,940万円（4.7%）減少し、174億9,337万円となった。

資本合計は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて1億1,050万円（1.1%）増加し、105億8,563万円となった。

1年超滞納未収金は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて115万円（26.7%）減少し、317万円となった。

企業債年度末残高は、市民病院では減少し、うわまち病院では増加した。事業合計では前年度に比べて7億8,850万円（21.1%）増加し、45億2,869万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により2,991万円増加し、投資活動により12億646万円減少し、財務活動により7億8,850万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて3億8,804万円（9.0%）減少し、39億418万円となった。

(4) その他

建設改良費は、前年度に比べて8億3,380万円（159.0%）増加し、13億5,807万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて200万円（0.2%）減少し、9億9,900万円となった。

職員数は、前年度と同数の13人であった。

1 市民病院

市民病院の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
経 営 成 績	医業収益	418,714	420,482	417,091	413,409	415,352
	医業損失	331,434	398,617	2,197,158	2,790,013	1,960,214
	経常利益又は 経常損失(△)	△89,949	△159,201	△321,185	64,068	46,103
	当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△100,066	△166,485	△328,468	60,022	46,103
	繰入金を除いた 当年度純損失	731,066	796,485	951,468	559,977	571,896
財 政 状 態	資産合計	6,543,996	6,562,302	7,317,456	7,182,368	6,688,632
	資本金	9,800,356	9,970,356	9,970,356	9,970,356	9,970,356
	資本合計	4,592,119	4,595,634	4,267,165	4,327,188	4,373,292
	自己資本構成比率	72.4%	72.1%	60.7%	62.8%	67.9%
	1年超滞納未収金	4,595	4,304	3,483	3,336	3,052
	不納欠損額	405	46	409	5	163
	企業債年度末残高	1,761,498	1,692,681	1,533,122	1,355,015	1,306,808
企業債利息	21,918	19,920	18,273	16,564	15,193	
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	478,515	420,617	415,668	361,154	543,510
	投資活動による キャッシュ・フロー	△223,643	△237,080	△292,372	△279,652	△221,352
	財務活動による キャッシュ・フロー	49,613	102,010	△150,120	△178,106	△48,207
	資金期末残高	599,998	885,546	858,722	762,118	1,036,069
そ の 他	建設改良費	288,171	359,843	321,159	269,912	242,864
	一般会計繰入金	826,000	800,000	623,000	620,000	618,000
	職員数	3人	3人	3人	3人	3人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
 2 繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
 3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
 4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の増により、前年度に比べて194万円（0.5%）増加し、4億1,535万円となった。

医業損失は、医業費用が新型コロナウイルス感染症関係補助金の指定管理者への支出の減などにより減少したため、前年度に比べて8億2,979万円（29.7%）減少し、19億6,021万円となった。

経常利益は、医業損失が減少したものの、医業外収益の減少が医業外費用の減少を上回ったため、前年度に比べて1,796万円（28.0%）減少し、4,610万円となった。

当年度純利益は、前年度に比べて1,391万円（23.2%）減少し、経常利益と同額の4,610万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失5億7,189万円となり、前年度に比べて1,191万円（2.1%）増加した。

(2) 財政状態

資産合計は、建物などの減価償却等に伴い固定資産が減少し、未収金の減などにより流動資産が減少したことにより、前年度に比べて4億9,373万円（6.9%）減少し、66億8,863万円となった。

資本合計は、当年度純利益により、前年度に比べて4,610万円（1.1%）増加し、43億7,329万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて28万円（8.5%）減少し、305万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて4,820万円（3.6%）減少し、13億680万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により5億4,351万円増加し、有形固定資産の取得による支出の投資活動により2億2,135万円減少し、企業債の償還による支出等の財務活動により4,820万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて2億7,395万円（35.9%）増加し、10億3,606万円となった。

(4) その他

建設改良費は、市民病院中央棟・東棟中央監視装置改修工事による建物改修や血管撮影装置等の医療機器購入などに充てられ、前年度に比べて2,704万円（10.0%）減少し、2億4,286万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて200万円（0.3%）減少し、6億1,800万円となった。

職員数は、前年度と同数の3人であった。

2 うわまち病院

うわまち病院の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
経営成績	医業収益	276,342	273,956	17,623	270,086	269,206
	医業損失	274,253	262,514	2,330,232	2,952,441	1,415,753
	経常利益	30,898	35,224	26,275	61,515	64,402
	当年度純利益	30,898	35,224	26,275	55,077	64,402
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	△351,101	△346,775	26,275	△325,922	△316,597
財政状態	資産合計	9,414,060	9,332,307	10,768,570	11,180,411	10,804,746
	資本金	2,586,600	2,690,600	2,795,600	2,795,600	2,795,600
	資本合計	5,822,368	5,961,592	6,092,868	6,147,945	6,212,347
	自己資本構成比率	68.0%	69.6%	62.1%	59.9%	62.3%
	1年超滞納未収金	1,131	1,156	1,112	999	124
	不納欠損額	144	49	50	81	854
	企業債年度末残高	2,955,786	2,755,856	2,554,791	2,385,173	3,221,886
	企業債利息	19,688	17,330	16,322	15,132	14,456
キャッシュ・フロー	業務活動による キャッシュ・フロー	336,119	343,087	260,606	1,354,050	△513,594
	投資活動による キャッシュ・フロー	△146,627	△354,803	△364,402	△304,823	△985,115
	財務活動による キャッシュ・フロー	△144,448	△95,929	△96,065	△169,617	836,713
	資金期末残高	2,958,014	2,850,368	2,650,506	3,530,116	2,868,119
その他	建設改良費	158,357	351,821	499,914	254,360	1,115,214
	一般会計繰入金	566,000	486,000	105,000	381,000	381,000
	職員数	4人	5人	10人	10人	10人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
5 30年度の職員数のうち1人は、うわまち病院専従の損益勘定職員である。
6 元年度の職員数のうち2人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。
7 2年度、3年度及び4年度の職員数のうち7人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の減少により、前年度に比べて87万円（0.3%）減少し、2億6,920万円となった。

医業損失は、医業費用が新型コロナウイルス感染症関係補助金の指定管理者への支出の減などにより減少したため、前年度に比べて15億3,668万円（52.0%）減少し、14億1,575万円となった。

経常利益は、医業損失の減少が医業外収益の減少と医業外費用の増加を上回ったため、前年度に比べて288万円（4.7%）増加し、6,440万円となった。

当年度純利益は、平成18年度から続いており、前年度に比べて932万円（16.9%）増加し、経常利益と同額の6,440万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失3億1,659万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、建設仮勘定の増などにより固定資産が増加したものの、現金預金の減などにより流動資産が減少したことにより、前年度に比べて3億7,566万円（3.4%）減少し、108億474万円となった。

資本合計は、当年度純利益により、前年度に比べて6,440万円（1.0%）増加し、62億1,234万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて87万円（87.6%）減少し、12万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の借入額が償還額を上回り、前年度に比べて8億3,671万円（35.1%）増加し、32億2,188万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当年度のキャッシュ・フローは、業務活動により5億1,359万円減少し、有形固定資産の取得による支出の投資活動により9億8,511万円減少し、企業債による収入等の財務活動により8億3,671万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて6億6,199万円（18.8%）減少し、28億6,811万円となった。

(4) その他

建設改良費は、回診用X線撮影装置等の医療機器購入や横須賀市新市立病院建設工事等の新市立病院建設事業などに充てられ、前年度に比べて8億6,085万円（338.4%）増加し、11億1,521万円となった。

一般会計繰入金は、前年度と同額の3億8,100万円となった。

職員数は、前年度と同数の10人であった。

